

今後の活動予定

■「アマモ」の堆肥で育てた野菜の収穫祭&食の交流会

- 日 程 平成26年1月18日(土) 10:00~13:00
 - 場 所 浜松市西区村櫛町 浜名湖ガーデンパーク近く
浜松市西区村櫛町 浜名湖ガーデンパーク体験学習館・研修室
 - 内 容
 - ① アマモを使って育てた野菜の収穫(野菜のお土産があります。)
 - ② 浜名湖の恵みの試食(大根・白菜・ジャガイモ・カニ・のり)
 - 参加者 どなたでも(親子での参加歓迎)
 - 参加費 500円(3歳以下無料)
- ※ 水筒を各自持参。畑で作業できる服装でご参加ください。



昨年の大根の収穫

■浜名湖の環境保全活動の課題と今後の取組みに関する

意見交換ワークショップ

- 日 程 平成26年1月18日(土) 13:30~16:30
- 場 所 浜松市西区村櫛町
浜名湖ガーデンパーク体験学習館・研修室
- 内 容
 - ① 浜名湖の環境保全活動に関する講和
 - ② 循環型環境保全活動の事例紹介
 - ③ グループワークショップ:今後の取組みについて
- 参加者 浜名湖の環境に興味のある団体・個人



ワークショップのイメージ

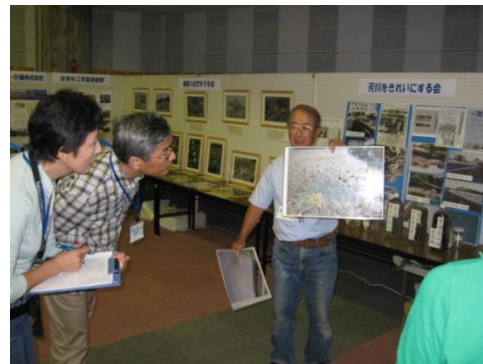
3/16「浜名湖環境交流会」の活動紹介パネル出展・発表団体の

久しぶりに「浜名湖環境交流会」を開催することになりました。

浜名湖流域で活動している団体、企業、一般住民の皆様に参加していただき、活動についてパネル展示や発表を通じた活動紹介を行うことで、情報交換の場としたいと考えています。

- 日時:平成26年3月16日(日) 13:30~16:30
- 場所:舞阪文化センター 大会議室
- 内容:パネル展示(浜名湖における活動紹介)
団体の活動発表(リレートーク)
浜名湖における連携の事例紹介
意見交換(フリーディスカッション)
トークライブ

現在、団体が行っている活動のようすがわかるパネル・ポスターの出展や活動を発表する団体を募集しています。
ぜひお問い合わせください。



ポスターセッションと活動発表

はまなこ環境ネットワーク 広報誌

はまなこ環境通信

発行/はまなこ環境ネットワーク **第20号**
発行日/平成25年12月1日
事務局/NPO法人地域づくりサポートネット
浜松市中区常盤町133-13 TEL:053-458-3480
Eメール info@shizuoka-t.net

浜名湖ラムサールシンポジウムを開催

11月10日(土)アクトシティコンgresセンターにて「浜名湖ラムサールシンポジウム」を開催しました。シンポジウムは富士山の世界文化遺産登録に続き、浜名湖の「ラムサール条約」の登録を目指すことで、豊かな浜名湖の環境を保全し、地域の誇りとして世界に発信していくことを目的に開催したものです。

当日は浜名湖を拠点に活動する事業者や団体、また地域の住民や、環境を学ぶ学生など70人もの皆様にご参加いただき、会場がいっぱいになりました。



ラムサールシンポジウム

浜名湖のラムサール条約登録に向けて!!

平成17年にラムサール条約に登録された宍道湖・中海から学ぼうと第1部では島根大学汽水域研究センター教授で、認定NPO法人自然再生センターの専務理事の國井秀伸先生を講師としてお迎えし基調講演を開催しました。また、環境省自然環境局野生生物課登録調査係長の柳谷牧子氏、株式会社地中景観研究所所長の新井章吾氏、はまなこ環境ネットワーク事務局長の山内秀彦の3人からの事例紹介が行われました。

続く第2部のパネルディスカッションでは、「浜名湖のラムサール条約登録の可能性と課題」と題して、当ネットワークの芥川代表のコーディネーターにより、國井秀信先生、柳谷牧子氏、新井章吾氏、浜名漁協協同組合代表理事組合長の吉村理利氏の4人のパネリストと、会場の参加者も加わった活発な意見交換が行われました。

- 日 時 平成25年11月10日(日) 13:15~17:00
- 会 場 アクトシティ浜松コンgresセンター
- 参加者 70人
- 主 催 はまなこ環境ネットワーク
- 後 援 環境省関東地方環境事務所、静岡県、浜松市、湖西市、はましん地域振興財団

浜名湖ラムサールシンポジウム報告

基調講演「ラムサール条約と自然再生－宍道湖・中海を例にして－」

島根大学汽水域研究センター教授で、認定NPO法人自然再生センター専務理事の國井秀伸先生が「ラムサール条約と自然再生 宍道湖・中海を例にして」と題し、平成17年11月8日のラムサール条約に登録を巡る流れについて、条約登録を目指すまでの経緯、登録後の保全の取り組み、自然再生事業について、専門的な研究者の立場でお話をしてくださいました。



國井秀伸先生による基調講演

事例紹介

■「ラムサール条約について」

柳谷牧子氏 環境省自然環境局野生生物課登録調査係長

ラムサール条約の目的、理念、登録状況、浜名湖とラムサール条約について全国の事例を交えて紹介してくださいました。ラムサール条約への登録のためには、保護ではなく、普及啓発とウィズユース（持続可能な利用）が重要であることが説明され、具体例が紹介されました。

■「中海の保全・再生と海藻肥料」新井章吾氏 株式会社 地中景観研究所 所長

中海におけるウィズユースと海藻の回収・肥料化の事例紹介として、硫化水素対策としての藻刈りの事例を紹介し、アサリの生息する環境を守るために昔のようにオゴノリなどの「藻狩り」を行い、それをNPOや地域の民間、研究機関等が肥料として開発・商品化していることが紹介されました。

■「浜名湖のアマモとウィズユース活動」山内秀彦 はまなご環境ネットワーク 事務局長

浜名湖を取り巻く環境とウィズユースの現状、また、はまなご環境ネットワークとして取り組むアマモ（水草）の利用プロジェクトの実施状況と意義についてお話をさせていただきました。

パネルディスカッション「浜名湖のラムサール条約登録の可能性と課題」

4人のパネリストと会場の参加者が、第1部で報告があった宍道湖・中海の事例や全国の事例などを参考に、浜名湖のラムサール条約のウィズユースについて活発な意見交換を行いました。

漁業者の立場から、浜名湖の環境変化について情報が提供され、環境や生態系などの科学的なデータ収集の必要性が指摘されました。また、ラムサール条約登録のためには、地域の賛同が必須条件であること、利害調整や地域の”覚悟”が必要であることも確認されました。

ラムサール条約は「持続可能な暮らしをどうやって楽しんでやっていくのか」が大事であり、まずは浜名湖を愛していくことが一番大切であるとの提案がありました。ラムサール条約への登録は目標でなく、条約登録からスタートであること、登録されたその先を見ること、継続して発言ができる場（協議会）をつくることなども提案されました。

浜名湖のラムサール条約登録に向け、ウィズユース、ソーシャルビジネスを軸にした活動を行っていくことについて合意が得られました



パネリストによるパネルディスカッション

堆肥化したアマモによる野菜栽培

7月に開催した浜名湖アマモクリーン作戦で回収したアマモを堆肥にして野菜の栽培に取り組んでいます。

「アマモ」利用の野菜づくり体験(9月7日(土))

浜名湖ガーデンパーク近くにあるNPO法人むらちゃネットさんの借りている耕作放棄農地で野菜づくり種まき体験を行いました。この活動で浜名湖のアマモ回収と農地利用が同時にでき、2つの課題が解決できることとなります。

大根・白菜・じゃがいもを栽培します。1時間半ほどの作業でしたが、農作業がたいへんな作業であることを改めて感じました。来年1月には収穫祭を行います。



アゼを堀り、アマモを入れ踏みつけていきます



収穫が楽しみ！

小学校での「アマモ」利用の栽培活動

浜名湖周辺の小学校にも協力していただき野菜栽培を行っています。子ども達の愛情をたっぷり受け順調に生育中です。

■南庄内小学校

浜名湖の東岸、庄内半島の中心部に位置する南庄内小学校では、全校生徒がアマモ堆肥で芽キャベツを栽培しています。

みんなで協力して芽キャベツの苗を植え、そして毎日、水やりをしてくれています。大きく美味しく育つのが楽しみです。



「大きくなーれ」「甘くなーれ」と魔法の言葉をかけました

■北庄内小学校

舘山寺温泉近くの北庄内小学校では、5年生がアマモ堆肥で白菜とピオラ（花）を栽培しています。

庄内地区は昔から農業が盛んで、かつては「庄内白菜」が全国的に有名でした。かつては白菜の栽培にアマモが堆肥として活用していたことを知っている児童はたった1名でした。

白菜もガーベラも、お日さまのいっぱい当たる校舎の南側で順調に育っています。



来年1月中旬頃に白菜が収穫できる予定、ピオラも順調に育っています